

今月の一枚



報恩講での市野先生の話に聞き入る参詣者（11月18日、順慶寺本堂にて）

◆◆ 順慶寺大肩衣 ◆◆

順慶寺では、大法要で役を持って頂いた方に、大肩衣を着用するように勧めている。肩衣は当初に、助音講専用の大肩衣（男性は緑、女性は赤）が作られたが、その後、役員も着用した方がよいとの意見が出て、護寺会総代・総代OB用の大肩衣（紺色）が作られた。

◇ 諸行無常を受け入れる ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「秋に水面の蓮を手で摘み採るように
自己への愛着を断ち切れ。

ブツダが説かれた静かな

安らぎに至る道を歩め。」（第二八五偈）

からの出典です。

順慶寺でも蓮の花は、大切にしていますが、夏に盛りとなった蓮も、秋には枯れた茎や葉をすべて切り取るようにしています。少し可愛そうな気持ちですが、実は、次へと歩み出す大切な一歩となります。

さて、今月のところは、釈尊の一番弟子でもある、舍利弗の弟子で、端正な姿の金細工師だった若者に対する言葉です。

金細工師だった若者が、舍利弗の元で出家すると、舍利弗は、その端正さを心配し、わざと不浄の業処（死体などを見て行う瞑想）をさせました。しかし、その方法ではなかなか深い瞑想に至らないために、舍利弗は師匠の釈尊に相談し、神通力で取って車輪ほどの黄金の蓮を

今月の釈尊の言葉

秋に蓮をつみとるように
様々な愛着をとり
安らかに生きよ

◆ダンマパダ（法句経） 第二八五偈より

若者が華やかな飾りで瞑想して心を得たが、華やかなものもやがて移りゆくことを教える。



若院のテーマカット NO.55



創り、その上で若者を瞑想させました。すると、若者は、心の中の様々な障害が消えて、禅定（心が乱れなくなった状態）に達しました。

しかし、釈尊は、このままだとやがて若者に向上はなくなると見て、今度は神通力で蓮の花をしばむようにしました。すると、若者は、やがて禅定から離れ出て、蓮のしぼむ姿を見て、移りゆくものの無常と苦を観じました。

そこで、釈尊は、若者に「禅定で執着が抑えられたものでも諸行無常の変化が襲ってくる。もし、執着が強かったならば、その変化の厳しさは尋常ではない」と教えました。

◆執着は教えを遠のける◆

かつて、京都大学名誉教授で、仏教学の第一人者であった①梶山雄一先生のもとで学んだことがあります。

深い仏教学の知識と法然上人・親鸞聖人への深い信仰をもって話をされた、梶山雄一先生のお話はどれも心を打つものでしたが、その中で、マガダ国の王妃であった、ケーマーの話は深く印象に残っています。

ケーマーはクシャトリアの娘でしたが、古代インドの大国・マガダ国の王・ビンピサーラから、その美貌ゆえに特別に乞われて王妃の一人となりました。それゆえに、普段から高邁な振る舞いをする人が多く、マガダ国の多くの人が帰依する釈尊にさえ会うこともしませんでした。

こうした姿に心を痛めたビンピサー

ラは、一計を案じ、釈尊と対面する機会をつくり、無理に対面させました。

面と向かつてても釈尊に目を合わせないケーマーに、釈尊は神通力を使い、極上の美しい天女を連れて来て、後ろからシユロの葉で釈尊を仰がせました。そして、次の瞬間、天女がみるみる年をとり、老衰して動かなくなりました。その哀れな姿を見たケーマーは、高邁な心は一気に失せて、釈尊の弟子となつたと言われています。

一連の話をされた梶山先生が、その話に続き、「君たち若い人もその若さに執着する限り、教えは聞こえせん。②五蘊盛苦と言われるとおり、次々と湧き出でくる若き活力に振り回されてばかりいると、本当のことは見えてきません」と教えて下さいました。梶山先生の言葉は、深く刻まれ、今ようやく意味が分かってきました。

①【梶山雄一】

昭和二年一月二十五日、静岡県生まれ。昭和二十三年京都大学文学部哲学科(仏教学専攻)卒業。久松真一、長尾雅人の指導を受ける。昭和二十八年から三年間インドビハール州立ナーランダ・パリ研究所に留学、昭和三十四年に「居庸関」の共同研究で日本学士院賞受賞。京都大学名誉教授。大乗仏典における空思想研究の第一人者。平成十六年三月逝去。

②【五蘊盛苦】

仏教の四苦八苦(生、老、病、死と、愛別離、怨憎会、求不得、五蘊盛の四苦)の二つ。身体全ての働き(五蘊)が盛んである故に、苦しみが次から次へと湧き上がってくる。五蘊とは次の五つ。
(1)色(いろ)や形のあるもの。
(2)受(う)感受作用。外界からの刺激。
(3)想(そう)表層作用。イメージ。
(4)行(ぎょう)イメージに対する意志判断。
(5)識(し)対象を得て判断する「心」の機能。



《第四十四回 報恩講》

大学の講義で、本来報恩講は報恩謝徳・懺悔回心の談合の場であったと習いました。しかし今日の報恩講は、お勤めをし、法話を聞く場になっており、私たちが念仏の有難さを共有する場という意識が



お寺の報恩講に前後して「お取越」が始まっていますが、何でお家でも報恩講をするのですか？

の報恩講にお参りして、御真影に詣でることが最も大切なことです。

ただ、今も昔も京都へ行くとなれば、それは、沢山の観光地も目に入るし、折角京都へ行ったら、京都の何処何処の名所へという気持ちになります。そうしている間に、本山参りがダシとなり、いつの間にか観光旅行がメインになってしまいます。

ですから、報恩講は、親鸞聖人の教えを聞き直す縁です。その気持ちをしかりするために、先ず、自宅の御内仏で報恩講を勤め、次にお手次ぎのお寺の報恩講に参り、そして、本山に上山することを勧めたわけです。

こうして、自宅の内仏で最初に報恩講のお参りすることから、「お取越」、「お引上」、「お仏事」などと言われるようになりました。

【お寺とともに】

来
年
に
向
け
て



「もう来年の支度をしていますよ。」

おかげさまで、今年の報恩講も何とか無事勤めさせて頂いた。いって少しホッとしていたのですが、このひと言に目の覚める思いがしました。

その方には、毎年本堂の菊をお供えしていただくのですが、ご苦労されて育てた畑の菊をたくさん切った後にすぐ来年の支度をはじめたとのことでした。

そう言えば、お昼のお斎の大根を作って下さる方も、根を作って下さる方も、

「来年は大根の種類を変えるからね。」

と、もう次の段取りをお考えなのです。報恩講はこの一年の締めくくりでありつつ、同時に次の報恩講へのスタートだよ、いつも住職が言っていたことを思い出しました。ホッとするのもそこそこ、まずは今年の反省を来年に生かせるように心がけることから始めたいです。

令和五年度当山報恩講

コロナ禍前のかたちで厳修

さる11月17日（金）から19日（日）、当山順慶寺にて午前午後の通常日程で報恩講が厳修され、連日、多くの参詣者がありました。

10月まで季節外れの暖かい日が続きましたが、11月に入って急に気温が下が

り、報恩講を迎える雰囲気になったところで、順慶寺では、初日の子ども報恩講をかわきりに三日間の報恩講を厳修

しました。

コロナ規制の撤廃

今年の報恩講は、本堂の入堂規制、マスク着用、アルコール消毒の自由化な



お勝手会の皆さん



助音講の皆さん



お花立ての様子

報恩講写真館

皆さまのおかげで、報恩講が無事終わることができました。



総代の受付業務



映像は、責役の相木国男さん製作のYouTubeにてどうぞ



子ども報恩講の様子



三河雅楽研究会の皆さん

どのコロナ禍で実施されていた規制を撤廃して、庫裏でのお斎の再開、書院でのお抹茶接待の再開など、ほぼコロナ禍以前の体制に戻して勤められました。

今回の報恩講から、総代の指示のもと、お抹茶の接待はすみれ会、お斎の準備はお勝手会にあたっていたとき、各地年番には、お斎の配膳や配布物の仕分けなどのお手伝いをお願いしました。

また、助音講によるお勤め、お花講の仏華準備、クリーン会のおみがきや大掃除、総代OB会による交通整理など、例年どおり順慶寺の総力をあげて法要を厳修することができました。

連日にぎわった本堂

本堂には、七十席ほどのイス席を準備しましたが、連日ほぼ満席となり、コロナ禍による影響を感じさせない賑わいとなり、法話の市野先生、宇治谷先生のお話にも熱が入りました。

最終日の午後には、御満座法要が勤められ、三河雅楽研究会の雅楽の音色と共に、男女の助音講が「如来大悲の恩徳は」の御和讃を声の限りに絶叫し、一年間助音の練習をしてきた成果を存分に発揮しました。

報恩講特別寄進

御仏供米ニ斗・ダイコン60本（ソ端鈴木市成氏）、御仏供米・俵大久屋岡川経康氏、御仏供米・俵今川西塚本敬氏、本堂荘庭用菊（近崎相木好永氏、他

11月度護寺会物故者

琴声院釋尼清心

11月19日寂 相木キヨ子（91）

名古屋市 相木英鋭様の母

遠州路を楽しむ

総代OB会主催バス旅行

さる10月30日、順慶寺総代OB会主催によるバス旅行が行われ、四十五名（申込は四十七名）の参加がありました。

当日は、秋晴れの浜松・龍潭寺などを訪れ、うな井に舌鼓をうち、おしゃべりあり、ゲームありで楽しい一時を過ごしました。



龍潭寺山門にて

編集部短信

◆責役・岡本博和氏叙勲〓 さきの秋の叙勲にて、責役の岡本博和氏が旭日双光章を叙章された。責役の叙勲は、前責役の相木茂男さんに次ぐ二人目となる。

◆二十一組団参バス二台〓 さる11月21日、岡崎教区21組主催による本山報恩講団参が実施された。参加者は、バス二台の八十一名。順慶寺からは七名の参加があった。

◆竹林整備を実施〓 さる11月23日、責役の相木国男氏所有の竹林整備が行われた。当日、竹の切り出しなどの作業に、総代OB会の皆さんを中心に十七名の方がボランティアで参加。来年のタケノコ掘りに向けて、半日の作業に汗を流した。

編集雑記

今年の報恩講は、コロナ禍以前に完全に戻すことをスローガンに実施しました。そんな中、護寺会会長が入院明けの体で、連日の行事に参加され、陣頭指揮して下さいました。法要後に話を聞くと、事前に歩く練習をして報恩講に備えてくださったとか。まさに「身を粉にしても謝すべし」との会長の思いが伝わった報恩講でした。（住）

.....
先日、車のドアノブを触る時に静電気が走り冬の訪れを感じました。ようやく冬らしい寒さになってきました。今年の秋は比較的温暖だったので、余計に寒さが際立っているように思います。（若）

1名の順慶寺護寺会員の
方が生前の役割を終えら
れ、浄土におかえりにな
られました。合掌





12月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	金	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
2	土		
3	日	来迎寺組お取越	
4	月	おたのしみ会(14:00、順慶寺本堂)	
5	火		
6	水	落合組お取越	
7	木	西丘組お取越	木-1
8	金		
9	土		
10	日		
11	月		
12	火		
13	水		
14	木	一里山組お取越	木-2
15	金		
16	土	順慶寺こども会(9:00、順慶寺本堂)	

17	日		
18	月	近崎組お取越 真宗講座(19:00、順慶寺本堂)	
19	火	北尾組お取越	
20	水		
21	木	平松組お取越	木-3
22	金	21組対抗ゴルフコンペ	
23	土		
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂) 年末大掃除(8:30、順慶寺)	木-4
29	金		
30	土		
31	日	年越し勤行・修正会(23:45、順慶寺本堂)	

12月行事内容 詳細

年越し勤行(修正会)

12月31日(日) 23時45分
～1月1日(月) 1時00分終了

順慶寺本堂にて

令和5年、私たちの生活で、大きく変化したことは、コロナ禍からの脱却です。日常生活では多くの面で規制がなくなり、コロナ禍以前の生活に戻りつつあります。

ところが、コロナ禍を経て、人々との距離感が微妙な変化を生み、あらゆる面で、今まであり方に問題を投げかけています。世界では、地球温暖化による環境の変化に加え、ウクライナ戦争、ガザ戦争などが勃発。効率化を求めて、画像音声、言語処理、異常検知、分析・予測などにAIが取り入れられ、いよいよ地球規模で大きな変化が訪れている気配です。

このような中で、私たちは、これからのあり方を真剣に考えるべき時になりました。

大晦日、除夜の鐘を打って一年の反省し、御本尊の前でお勤めをして、心新たに新年を迎えましょう。

好評につき

今年もおきからのお年玉

年越し勤行の右記の時間に、本堂で正信偈のお勤めをされた方に、寺からのお年玉として、もれなく、粗品を差し上げます。お楽しみに。

お知らせ

●組のお取越はじめます

12月より順次、組お取越を始めます。該当の皆さんは、事前に配布してある予定表を参照して下さい。

●真宗講座の福田先生最終講義

コロナ禍以前の令和元年より真宗講座に講師としてお越し頂いている、同朋大学副学長・福田琢先生が、途中コロナ禍自粛期間を含め、三カ年の任期を終えて、本年十二月の真宗講座で最後

じゅんこのときめき歳時記

ナンテン

みなさん、十一月以降、一気に寒くなってきましたね。風邪など引いていませんか。

冬になって、風邪を引いて咳がでると、よく南天のど飴をなめますよね。聞くところによると、ナンテンの実に含まれるドメスチンというアルカロイド成分が咳止め効果をもつためらしいです。その他に、葉っぱにも、ナンジンという成分があって、熱と水分に触れると、防腐作用のあるチアン水素を僅かに発生するため、よく赤飯に添えられるのだそうです。因みに、お祝いの場合には表、仏事の場合は裏にするのだとか。

ナンテンの由来は、中国の食堂の灯

終講義となります。皆さまお誘い合わせてご聴講ください。

●今年の年越し勤行は通常実施

今年の年越し勤行は、コロナ禍以前の体制に戻し、庫裏・書院を使わず、除夜の鐘を除く行事をすべて本堂で実施いたします。大晦日の深夜、皆さまと本堂でお勤めをした後、御本尊前での焼香、お屠蘇接待、お汁粉接待などを実施する予定です。家族揃って御参詣ください。

りを意味する「南天燭」、複数の竹が重なる意味の「南天竹」が語源らしいですが、日本では、「難転」という語呂から魔除けとして植えられることも多いそうです。

日当れば

みんなあはれ実南天

星野麥丘人

